

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873002014		
法人名	社会福祉法人 サンシャイン		
事業所名	グループホーム サンブラザやすらぎ		
所在地	尼崎市蓬川町331番4号		
自己評価作成日	平成26年6月16日	評価結果市町村受理日	2014年 8月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成26年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に関しては、3食手作りでホーム内に料理をする音やにおいなど、生活感を感じてもらえるようにしている。
 また、地域との関わりを大切にしており、地域の行事(クリーン活動・ラジオ体操)に参加させてもらっている。
 利用者様も楽しみながら、地域の方との関わりを広げ、良い関係性を築いている。
 利用者ひとりひとりの持っている能力や性格等を把握し、やりがいを見つけ出すよう努めています。
 職員もその支援ができるように、見守り、声掛けに十分配慮をしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りに市営・県営住宅があり、地域に開かれた施設を目指しており、自治会に加入し、利用者も地域住民として、地域の行事、清掃等地域での活動に積極的に参加している。事業所は、利用者が役割をもって主体的に生活できる支援に努め、職員は、観察と思考を基に、まず利用者のできる力を尊重し、できないことをともに行ったり、普段との違いやサインを読み取り対応することで、利用者に喜んでもらえるよう支援している。9名の利用者は、屋上の「やすらぎ農園」で野菜や花を栽培し、とれた野菜が食卓に登場している。管理者が替わり、さらなる利用者尊重を検討しているため、権利擁護に関して学ぶ機会を多く作り、研修内容や方法を検討され、全職員が理解し、利用者主体の取り組みが充実するよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と地域、スタッフとが繋がる理念を通して、管理者と職員は理念を元実践している。	理念を掲示し、カンファレンス等の話し合いや連絡ノートを使って、理念の共有を図っている。残存能力を活かした利用者主体の暮らし、地域とのつながりを大切に生活を送れるよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族の方や地域の代表の方々に理念の説明を行い、利用者が地域の一員として暮らしてもらえるように理解と協力を図っている。また、隣接する団地の方々との交流も図っている。	自治会に加入し、地域の行事参加、地域の掃除に職員とともに参加している。夏休み中のラジオ体操、ふれあい喫茶、近所への買い物等、積極的に地域に出かけ、近所の方とも顔見知りになり挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までしていた様に、今後も自治会長、民生委員等と話し合いを持ち、地域の高齢者の方々の為に役立てるように取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、家族会とは別に保護者会が発足しており、保護者会での意見を真摯に受け止め、サービス向上に努めている様になっている。	利用者、家族、地域包括、地域住民、ボランティア等が出席し定期的に開催している。事業所から行事等報告、地域包括から他施設の情報を得たり、家族の困りごとや最近の話題になっている出来事(認知症高齢者の行方不明)について意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や法令、制度で疑問が生じた際は、市の担当課へ随時、協力や相談をしていけるようにしている。	事業所運営や制度上の解釈等について、わからない場合は、市の担当課へ相談している。事業所の実情等は、地域包括支援センターへ相談することが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないケアに取り組み、見守りを基本として、考える介護を実践している。	法人の研修や事業所でのカンファレンスで、身体拘束をしないケアについて理解しており、現在身体拘束は行っていない。玄関は、同じ建物内のデイサービスとの兼ね合いがあり、施錠している。建物内に閉じこもらず、外出の機会を多く作っている。	事業所は利用者の閉塞感を軽減するよう努めているが、施錠の弊害について、法人の他の事業所とも一緒に、先ず短い時間からでも開錠できないかご検討いただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修を通して管理者や職員は虐待防止についての学ぶ機会を設けている。また事業所内においても皆で注意を払い、虐待防止に努めている。	法人研修や事業所内で新聞の記事の回覧等を通して、虐待防止について学んでいる。一人の職員に負担がかからないよう、職員配置を工夫している。管理者は何でも話し合える雰囲気づくりや、希望休も取りやすい環境づくりに努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の入居者様が、成年後見制度を利用されている。	成年後見制度を活用している利用者がいて、後見人等の訪問もあるが、職員に対して、制度についての研修は行っていない。パンフレットも置かれておらず、家族等への説明も行っていない。	新たに後見制度の活用が必要になった場合に備え、すべての職員が理解を深めることが望まれる。運営推進会議で、地域の方も含め、一緒に学ぶ機会を持たれてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、全ての書類を読み上げ、都度説明を行う。また要望などを聞き、不安を解消し、理解や納得してもらえるように努めている。	十分時間をかけて、重要事項に基づき説明を行っている。費用面や、最期まで見てもらえるか等、家族の不安やリスクについても、わかりやすく説明している。見学に来てもらい納得して入居してもらおう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	保護者会からの意見を報告してもらったり、苦情相談の窓口も設けている。普段から、家族やボランティア等、気軽に話しやすい雰囲気作りに努めている。	年1回保護者会を開催し、家族のみで話し合う場を設けている。「職員の対応が悪い」、「本人との会話の話題にしたいので、どこへ出かけたか知りたい」等の意見に、職員へ認知症の研修を行い利用者理解を深めたり、外出の写真をボードに張って、家族に見てもらおう工夫している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、事業所内でのカンファレンスと法人運営会議があり、その場で現場の意見や提案を取り上げ、実施に向けて反映させている。	カンファレンスで出された職員のフローリングの傷についての意見等の気づきを法人に伝え、改善につなげた。また、リクリエーションの係りを作り、積極的に職員で案を出し合っ、検討し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある現場作りを目指し、職員との関係も密に図っている。また、入居者の方との馴染みの関係を続けていけるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア等の研修に参加の場合は、出張扱いとし、全費用を負担し、積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に入会している。サービスの質の向上の為、職員は勉強会や討論会に参加し、サービスの向上を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入居申し込みの際に、ご本人が来られたら、じっくり話を聴き、少しでも不安を取り除き、安心して頂くことが出来るよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方々が話をしやすい雰囲気づくりをして、今までの苦労話や心の葛藤をよく聴き、受け止める努力をしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする他のサービスの説明や紹介も行い、利用までの待機間については、家族様やケアマネジャーと相談しながら見極めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個別性に目を向け、出来る事、出来ない事を見極める。共に生活し、家事などを一緒にしながら、互いに支えあう関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係を深め、いつでも訪問しやすい環境づくりを心掛けている。喜怒哀楽を共有し一緒に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の親しい友人が、訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。また、通所との関わりを通して友人に会う機会も設けている。	毎月のふれあい喫茶やデイサービスと合同の行事で、近所に住んでいた人に会ったり、一緒に働いていた同僚に会ったりする。元生徒が面会に来ることもある。馴染みの美容院へも出かけるなど、馴染みの関係継続が支援されている。墓参り等普段行けない場へは家族の協力を求めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志それぞれの関係を把握し、孤立せぬよう、また、トラブルのないように努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いを送付し、近くの家族には時折、訪問してもらい関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人一人の思いを会話や動向の中から、くみ取るように努めている。また、困難な場合は家族の協力を得て本人本位に検討している。	利用者が、何処で、どのように生活したいかを、本人、家族、入居前利用していたデイサービス提供者等から聞き取っている。把握困難な場合は、他の利用者との関わりを通して、楽しいと思ってもらえることを支援する中で、表情や動作から汲み取っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者本人や家族から得た生活歴や馴染みの暮らしなど、多くの情報を把握するように努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する力を見極め、その日の体調も考慮しながら無理をすることなく、出来ることをしてもらっている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員全体が意見やアイデアを出し合い、ケアプランへと繋げている。また家族の要望も取り入れて作成している。	計画作成時は、医師や法人の看護師、栄養士からの意見も参考にし、本人、家族の意向を計画に反映させている。モニタリングは全職員で行い、担当職員がまとめ、次の計画につなげている。実現可能な目標を立て、専門用語は使わず、わかりやすい内容にしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりを通して、個々の様子や気づいた事をケアノートと介護日誌に記録し、職員全体で共有している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を把握し、デイサービスに参加させてもらったり、外出したりして個々に応じた気分転換も図っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼児クラブや、老人会の催し物に参加させてもらっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で連絡が取れ、希望時には往診も行ってもらえる事で、利用者、家族様が安心して信頼の出来る医師をかかりつけ医として迎えている。	入居前からのかかりつけ医院に通う事も可能である。現在の往診医が、利用者とその家族から厚い信頼を得ており、24時間安心した医療を受ける体制がある。他に歯科往診、眼科往診の連携支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の医院の看護師と連携して、相談や経過報告をしている。何かあれば直ぐに駆けつけてもらえる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合には、提携医療機関と連携をとり、早期に退院できるように努めている。	最近、入院事例が無いが、それには往診医が、疾病を早期発見し、事業所との適切な医療連携の成果と言える。入院時は見舞いやカンファレンスに参加し、早期退院に向けた働きかけを行う準備がある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期になった場合には、家族、主治医と事業所全体が相談しながら取り組んでいくことを説明している。	看取りが必要になった場合は、往診医から家族への説明がなされ、事業所からも出来る事、出来ない事を充分説明し看取りを実施している。看取りに際しては職員の精神面への意識の共有を行う事で、「後悔しない介護」を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での全体研修や管理者が定期的に指導している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、また、地域の人々にも参加を呼びかけ、いつでも協力してもらえるよう働きかけている。	事前の打ち合わせをあえて行わず、突発的に起こった火災を想定し訓練を行った。今後は、夜間を想定した訓練や、火災以外の訓練を計画し、地域との連携を予定している。	訓練の状況や結果を、スタッフ間で振り返る等の機会を設ける事で今後、スタッフ全体の防災意識の向上に繋がる事を期待したい。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、安心、納得できるよう、声掛けや対応に配慮している。	利用者に伝わりやすい声かけを行っている。個々の利用者に目を向け、その人にとってより良い声かけを実施している。それらの事例を職員で共有し、利用者を尊重する声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の自己決定を尊重した声掛けを行いながら、毎日を暮してもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしを送ってもらえるよう、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ご本人の望む美容室に行っていたりしている。行きつけの店がない方には訪問理美容を利用していただき、身だしなみやおしゃれの支援に努めている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、後片付けをして、共に生活。利用者には「ありがとう、助かりました。」と感謝の気持ちを表している。	食材の下処理や食器の準備、盛りつけや後片付けなど、その人が出来そうな事を把握し、役割を持ち、参加してもらっている。「屋上で栽培した野菜を添えたり、好みを把握しメニューに加えたり、嫌いな物は代替りのものを提供する等、食べる楽しみが支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の方には捕食を摂ってもらったり、必要量摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着中の利用者には、一日一回洗浄剤に浸している。利用者全員に毎食後、口をすすいでもらう様支援している。歯科衛生士の訪問も受けている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	拒否で汚染の多い利用者に対して、戸掛けの工夫等を行い、上手く行った時の方法を、職員間で情報として共有し、リハビリパンツやパット類の使用量の削減に努めている。また、行動を見て、察知する様に努めている。	オムツ使用者にもポータブルトイレを活用する等、可能な限り、トイレでの排泄に取り組んでいる。排泄の声かけも羞恥心に配慮し、排泄が他者に伝わらないよう声かけの工夫を話し合っている。行動や表情から排泄サインを把握する取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューや調理を工夫し、水分補給をこまめに行うよう気を配っている。出来る限り散歩に出掛け、歩行を促すようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に応じて、毎日の方、一日おきの方や、一人で入浴したい方に合わせている。最低週2回は入れるように声掛け等注意している。	入浴は、特定した曜日、時間は設けず、利用者が入りたい時間や思いに寄り添い支援している。入浴嫌いの方には、足浴から慣れてもらったり、家族の協力を仰いで声かけをしてもらったりと工夫がなされている。近所の銭湯で広々と入浴を楽しむ利用者も居る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて、休息されている場合は無理には起こさず、気持ち良く休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬ケースに薬の目的や用量を貼り付け、職員全体で理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(習字、カラオケ、手芸、園芸など)を取り入れ、少しでも楽しみながら、日々を過ごせるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって、出来るだけ外出を心掛けている。日用品なども備えはあるが、一緒に出掛けて購入をしたり、近くの蓬川沿いには、時期の花々が植えてあるので、楽しんでもらっている。	日常的な近所への散歩や、ふれ合い喫茶への参加や、買い物など、地域に出向く事が多い。外食や遠足を企画し、地域以外にも外出する機会を作っている。家族と外出で、墓参りに行ったり、職員とのドライブで、馴染みの場所に行く人も居る。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物際には、利用者に支払いをしてもらい、お金の所持や使えることを味わってもらえる様に心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも葉書、便箋を用意している。また好きな時に電話をかけられるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は季節を感じてもらえるように工作や貼り絵、花などは利用者の方に生けてもらっている。また、自然の風を感じてもらえるように、換気には気を配っている。	レクリエーション等を通じ、季節を感じる事の出来る作品を利用者が作成している。利用者が生ける季節の生け花をフロアに飾り、共有空間を心地良いものにする実践がなされている。利用者は明るい空間の中で、思い思いにソファでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下部分に長椅子やソファを置き、好きなところで過ごしてもらえるように努めている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境に近づけるため、入居時に使い慣れた筆筒等を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるよう支援している。	家族からの聞き取りなどから、可能な限り馴染みの物を持ち込んで、本人が暮らしやすい環境に近づけるよう取り組んでいる。思い出の写真や手作りの作品が飾られその人だけの空間が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドからの転落があった方には畳に布団を敷いて寝てもらったり、出来るだけ、ご本人の力で動作がとれるよう工夫している。		